

人権なら

2023年7月1日

第151号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

制約を脱し活動の活性化へ

NPOなら人権情報センターが第23期総会

NPOなら人権情報センターは6月25日、三宅町あざさ苑で第23期通常総会を開催した＝写真。古川友則理事長は「コロナ禍にさらされ、3年が過ぎた。制約されていた状態を回復させたい。NPO法人として、何ができ、できなかったかを検証したい。学習会や機関会議は開けなかったが、第13回研究集会は成功裏に終えることができた。反省も含め、取り組み課題を共有したい」とあいさつした＝写真。



取り組み課題を共有し、着実な遂行を確認

祝電・メッセージが披露され、議事に入った。議長に三宅支局の福嶋明美さん、議事録署名人に吉岡弘子さんと與浦幸二さんを選出した。

2022年度活動報告、決算報告、会計監査報告が提案され、審議のあと、承認。続いて、2023年度活動方針、予算案が提案され、活発な質疑のあと、すべての議案を承認し、終了した。

質疑では、組織課題として、ホームページの抜本的改革、部落解放運動史の編纂、「人権なら」の紙面充実や購読者の拡大、機関会議の平日開催の見直し、財政基盤を安定させるための委託事業の拡大など、多くの提案や要望に対して応答があった。

最後に、「差別と人権」研究集会の参加者を増やすとともに、支局員の積極的参加で成功させるなど、諸課題を遂行し、活動の活性化を図ることを確認した。

ハンセン病問題を学ぶ

市長・住民の反対乗り越え出来た「むすびの家」

第12回ハンセン病問題を学ぶ集いが6月25日、県社会福祉総合センターであった。架け橋長島・奈良を結ぶ会が主催。80人が参加した。NPO法人むすびの家理事長の湯浅進さんが「なぜここにむすびの家はあるのか」と題して講演した＝写真。



鶴見俊輔さんが1963年、ハンセン病快復者への宿泊拒否に抗議し大学ゼミで訴えた。その学生たちが「快復者も泊まれる家を建てられないか」と奔走。湯浅さんはその一人だった。建設場所は奈良市の大倭町。大倭教の矢追日聖法主が土地を提供した。建設中、地元住民100人が「建設反対」に押しかける。当時の奈良市長は「このような施設ができることは地域の発展を阻害する」と反対声明を出す。しかし、様々な困難を乗り越えて、完成にたどりついた、と。

16時間授業で考え悩んだ式下中の生徒たち

式下中学校教員の岡山優子さんは「わたしにとってのハンセン病問題」と題し、同問題を考える16時間の授業内容を報告した＝写真。



忍性の患者救済の功績、映画「あん」の鑑賞、原作者ドリアン助川さん、「いちようの会」の岡山育夫さん、支援センターの加藤めぐみさんを招いての講演など、1年間の取り組みで生徒たちが考え、悩んだことや、「差別はあかんだけではなく、人はなぜ差別するのか。どんな時に差別するのか。差別はなくなるのか」との生徒の真摯な思いを語った。

「救済の客体」から「解放の主体」へ

式下中職員研修会でハンセン病問題を学習

式下中学校の職員研修が6月7日にあった＝写真。

ハンセン病市民学会
共同代表の訓覇浩(く
るべこう)さん(写真)
が話をした。訓覇さん



は、ハンセン病隔離政策に反対し、患者の治療に生涯を捧げた京都大学の小笠原登・医師(1888～1970年)を描いた映画『一人になる』の制作に関わった。

中本克広校長が研修の意義を述べたあと、『一人になる』を少し鑑賞。そのあと、訓覇さんが「真の『隔離からの解放』に向けて－『救済の客体』から『解放の主体』へ」をテーマに話をした。

真宗大谷派は1996年の「らい予防法」廃止を受け、「隔離政策」に加担してきたことを「謝罪」。それをきっかけに訓覇さんも取り組みを始める。療養所訪問の際、入所者に「良かったですね」と声をかけた。だが、「あなたは、社会は、どう変わってくれたのですか」という厳しい問いかけを受けた。



実際、廃止後も、家族から故郷に戻るなど言われた人は何人もいる。「絶望を再び味わうのなら廃止などされなくてよかった」との声も聞いた。この経験が活動を続ける原点だ、と。

「無らい県運動」はコロナ禍の「同調圧力」と重複

1989年から「解放推進本部」の職員として活動してきた。でも、「ハンセン病問題」が見えない取り組みだった。コロナ禍での「同調圧力」は「無らい県運動」と重なる。「群れる」と「自分を預けてしまう」ことになる。差別意識に通底する人のありようを考えさせられた。

ハンセン病家族訴訟弁護団の神谷誠人弁護士の言葉、「一人ひとりが語る体験は戦慄を禁じ得ない事実。自らが、そして家族、親族が生き延びるために故郷を捨て、家族、親族との交流を絶ち、肉親の病歴や

存在まで隠し続けるという『不実』と『嘘』を繰り返させる生き方を余儀なくされている」を紹介。ハンセン病家族訴訟と判決が示したものについて語った。

隔離からの解放を共に願う当事者に

ハンセン病隔離政策が及ぼした人生被害は「比類なく深く」「ひとりひとりの全人格、全人生にわたるもの」だ。絶対強制隔離の療養所では、断種、墮胎、故郷との断絶、奪われた本名、強いられた沈黙がある。

地域社会では、無らい県運動の爪痕が今も残る。「繰り返される差別被害」として、「黒川温泉ホテル宿泊拒否事件」(2003年)などを挙げた。

最後に、「水平社宣言」の「勲(いたわ)るかのごとき運動から自ら解放せんとする運動へ」を紹介。加害者ということではなく、隔離からの解放を共に願う当事者へ、「救済の客体」から「解放の主体」へ、と提起した。

天中夜間を廃校にするな！

第54回天王寺夜間中学同窓会が総会

第54回天王寺夜間中学同窓会が6月4日にあった。

総会では、天中夜間を廃校にさせてはならないと、1



年間にわたる「活動(闘い)」報告があった。

生徒会、学校、大阪市教育委員会との話し合い、市議会議長への「陳情書」提出。各党市議への働きかけ、「廃校反対」情宣や、市内各地域への「夜中生募集」のポスティングなどの活動を続けてきた。

「生徒募集」のポスティングで一人の生徒が入学した。連合生徒会からの報告やエールもあった。自己紹介・意見交換では、天中生徒も発言。「廃校は絶対いや」「天中と出会いは人生を変えた」の発言が続いた。韓国から参加した生徒や、高野雅夫さんの発言もあった。最後に、全員で集合写真を撮った＝写真。

手づくりってあったかいね！

子どもの居場所へ「みんなとあそぼう会」

新年度を迎え、子どもたちはそれぞれ新しい環境、新しい人との出会いに、大きな緊張や不安を感じたり、また、期待でわくわくする気持ちになったりしたと思います。楽しいことばかりではなく、憂うつになったり、泣きたい気持ちになったり、ちょっとしたことで気になったり、友だちとの関係で傷ついたりすることもあるのでは…。でも、みんな本当に頑張っているなあ。一人ひとりのいろんな経験が成長につながるといいなあ、と思っています。



そんな子どもたちに「だいじょうぶ」「がんばってるやん」「いいよ。いいよ。それでいいやんか」「顔見せてくれてありがとう」という気持ちを伝えたい。休憩したらいいよ。おしゃべりしに来てくれたらいいよ。好きなゲームもOK。映画も観てくれたらいいよと、5月27日、三宅町あざさ苑で「みんなであそぼう会」を行いました。

子どもたちがのんびり過ごせる自由な空間を

この日は‘映画会とシューマイ’のあそぼう会。参加者は子ども30人、大人8人でした。中学生が8人参加してくれました。子ども同士で声をかけ合ったり、保護者の方が誘ってくださって、初めて参加してくれた子どもも数人いました。久しぶりの再会に、なつかしさと、子どもたちの成長した姿に感激しました。

会場としては、シューマイを調理する栄養指導室、映画会の研修室、のんびりできる和室をお借りしました。映画は『トイ・ストーリー4』。研修室は音響設備が整っているため、ちょっとした映画会場になりました。

和室では、トランプやカードゲームをしたり、ものづくりをしました。自分たちの好きなあそびで、好きな人とのんびり過ごす自由な空間ができました。

映画が終わって、手づくりのできたシューマイと、ワカメスープをいただきました。地域の方が自分に何

かできることは…と、おやつに手づくりシューマイを作ってくださいました。作りたてのシューマイはおいしく、「もっと食べたい」「おかわりほしい」「うまいわ！」とみんな大喜びでした＝写真。

シューマイは、子どもたちに喜んでもらえたらと200個近くも包んでくださいました。やさしい気持ちが込められていて、あたたかい気持ちになりました。中学生たちは配膳のお手伝いを快くしてくれました。



子どもたちの話を聴き、心に触れていく

「あそぼう会」に参加してくれる子どもたちには、いろんな目的や理由があります。好きな大人に会えることを楽しみに、おしゃべりしたい。聞いてほしい。みんなとわいわいしたい。好きなゲームを気兼ねなくできる。映画を観たい。暇だから。お家の人に勧められて、何かおもしろいことがあるかも、など、さまざまです。

コミュニケーションが良好な子どもたちばかりではありません。心配やなあ、と感じる子どももいます。でも、子どもたちなりのもどかしさや、もやもやを抱えながら、「楽しもう！」とやってきてくれます。

小さな集団ですが、それなりにもめ事も起こります。日常の関係を引きずっていることもあります。そのことの解決はできませんが、話を聴くことはできます。みんなの心の中を理解することはできませんが、心にふれることはできるかもしれません。

日頃の忙しさから逃れ、緊張感を少なくしてのんびり過ごせたら、言いたいことが少しでも言えるかも。誰かがそばにいてくれたら、少し元気になれるかもしれません。「がんばってるやん。だいじょうぶ」と、大人も自分自身と向き合いながら、子どもたちに伝えたい。

「あそぼう会」が気持ちの休まる場所になれるといいなあ、と期待をもって、「またやるからおいでね。またね～」と子どもたちに声をかけ続けています。

(子どもの居場所づくりをつくろう会・山本薫)

カンボジアからの風 <22>

「サントピアアップハウス」の建設が始まりました

古川沙樹です。いつも温かいご支援、ありがとうございます。カンボジアに住み始めて14年目に突入したのですが、まだまだ驚かされる事がたくさんあるなあ、と日々、鍛えられています。



現地ポイペトでは、サントピアアップハウス(仮称)の建設が3月から始まりました＝写真。ハウスの建設は、子どもたちが自由に遊べる場所、みんなが集える場所、住む場所が無くなったときに一時的に駆け込むことができる場所が必要だと考え、建設に取り組むことを2019年に決めました。

たくさんの方が賛同し、ご寄付していただき、土地を購入することができました。急激な地価の高騰で、当初想定した予算をかなりオーバーしましたが、イメージとピッタリな場所に購入することができました。

子どもたちが遊べる場、駆け込める場として

2019年のサントピアアップツアー参加者には購入し

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

トラブル激発のマイナンバー制度。ポイント給付を餌に申請増を図るも、誤交付、誤登録が次々と発覚。返納者も多い。データ入力 of 煩雑さに加え、運用する医療機関でも「無効」表示で大混乱。2兆円もの税金投入もこの体たらく。カード取得は任意。なのに保険証紐付けで実質強制。一枚のカードにあらゆる個人情報は無茶すぎる。5年毎の更新も必要。政府は個人情報の管理で統制支配が可能となるため強硬に推進。IT業者も巨額の利権を巡って群がる。事業の民間委託で情報漏洩は必至。3年後には「新カード」導入とか。ならば、廃止を含め全面的に見直すべきだ。

た土地を見てもらい、その後、日本で開催したツアー報告会で「こんなハウスにしたい」との意見をいただきました。それを基に友人でカンボジア在住の設計士、下川綾子さんに私たちの願いや夢を取り入れた素晴らしい設計図を提供していただきました。

押し寄せる外国資本の開発。みるみるうちに更地になり、どんどん村の地価が高騰していくのを目の当たりにし、このままでは子どもたちの遊ぶ場や、貧しい人々が暮らす場所がなくなってしまうのではないだろうか、と大きな懸念を抱かされています。

8月12～17日に4年ぶりのツアーを開催

8月12～17日には、「サントピアアップハウス ホンマにできてるんかいな？」と題して4年ぶりのツアー開催を予定しています。皆さんに現地に来ていただき、進捗状況の確認や、作業に参加できるプログラムを考えています。参加希望の方や、詳細を知りたい方はinfo@santapiup.comか、なら人権情報センターに問い合わせください。



また、大変心苦しいのですが、ハウス建設に係るご寄付もお願いしております。急激な円安(カンボジアはドル社会)で当初見込みより大幅に資金がかかっています。色々と資金繰りをしてきましたが、100万円ほど不足しています。ご協力いただけます方は以下の振込先をお願いいたします。■ゆうちょ銀行/店番458/普通預金/口座番号2662781/特定非営利活動法人サントピアアップ ■郵便振替口座/(0)0900-7-329383/特定非営利活動法人サントピアアップ。

(NPO法人サントピアアップ代表・古川沙樹)

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/